

敵機の爆音

私が岩手中学校に入学した年（昭和30年）の事です。正面玄関を入ってすぐ右にあった、応接室にて、ある日、担任の中村嘉明先生の資料作成を手伝っておりました。

ここには大きな電蓄（AM ラジオとモノラルのレコード、プレーヤーを合体したもの）が有って、その脇に沢山のSPレコード（大型で、分厚く、重い）が置いてありました。

その中に、戦時中、敵機の飛行音（爆音）を録音した物を見つけました。

戦局が悪化して、米軍機に度々、空襲される様になって、敵機の爆音らしきを聞いた時の状況判断に役立てようとして、作られたと思われました。

当時より、自動車と飛行機に興味のあった私は、仕事の後、そのレコードに針を下ろして耳を澄ましました。

敵機、B - 17、高度、4000m、と男性の声で解説があって、4発の大型機が除所に接近して、頭上を通過し、遠ざかる音が聞こえました。

次に、敵機B - 17、高度2000m、と声があって、より音量の

ある、爆音が近付き遠ざかって行きました。

B - 17、はアメリカの、現在はジャンボ機、等の旅客機も製造している、ボーイング社が、第二次大戦中、主にヨーロッパ戦線用に製造した爆撃機でした。

日本軍が南方戦線にて、たまたま鹵獲した機体を内地に送って、研究材料としていた内の一機を使って、録音したと考えられました。

日本、本土を爆撃したのは、B - 17の後に同社が製造した、B - 29でしたが爆弾を抱えて飛んでくる、B - 29の飛行コースに、集音マイクを持って入る事は出来ない為、代役の B - 17を使って録音されたものと思います。

このレコードがどの程度、役に立ったものか疑問です。

終戦前に在学しておられた、諸先輩方はこのレコードをご存知でしょうか、又、このレコードは、当時、何処の中学校、女学校（旧制）にも配備されていたのでしょうか。

この件について、ご記憶をお持ちの先輩よりの投稿をお待ちします。